

シグマ研究委員会 昭和60年度 第2回運営委員会議事録

日 時 昭和60年7月19日(金) 13:30~17:30
場 所 原研東海研 研2-221号室
出席者 鹿園(委員長, 原研)
大谷(動燃, 白方代理), 梶山(東北大), 中沢(東大原施),
中嶋(法大), 五十嵐, 長谷川, 原田, 松浦(原研)
オブザーバ: 浅見(原研)

配布資料

1. 前回運営委(60.4.26)議事録案
2. シグマ特別専門委員会(60.6.10)議事録案
3. シグマ研究委員会 会合開催及び旅費使用状況
4. 核データ活動の将来像案(パネル討論会)
5. 核融合ニュートロニクスにおける核データ検討会開催について
6. NEANDC Topical Conference etc,
7. Initial Planning for IAEA Advisory Group Meeting on Neutron-Source Properties, Leningrad, June 1986.
8. 核データ・原子分子データ整備計画アドホック会議の検討結果について(報告)
9. 核データ研究会プログラム案
10. 核データ国際会議準備委員会第1回会合議事録
11. 第24回原子力総合シンポジウムでの情報流通関連テーマの発表について提案
12. JENDL-2による高速炉の遮蔽評価

議 事

1. 前回運営委員会議事録確認

資料1により確認を行った。

2. シグマ特別専門委員会議事録確認

資料2について確認を行い、一部修正の上で了承された。

3. 事務局報告

- (1) 委員会人事：6月10日の本委員会以後に発生した委員の異動、交替について報告があり、審議の結果、次の通りにすることにした。

本委員及び運営委員の交替：白方氏→大谷氏(動燃)

運営委員：河原崎氏(原研)

本委員：秋山氏(東大原施)

諮問・調整委員：鹿園氏 → 河原崎氏(原研)

専門委員：和智氏(原発)、瀬尾氏(京大炉)

なお、河原崎氏(運営委員)と秋山氏(本委員)については、先日の本委員会で提案する筈であったが手違いで提案の中に入っていなかったため、改めて郵便で各本委員の了承をとることにした。

- (2) 旅費使用状況：資料3により報告があった。

4. 原子力学会特別会合

五十嵐氏から資料4により特別会合のテーマ、講師、座長等について説明があった。また、楢山氏から日時について10月2日、15:35～17:35に決ったとの報告があった。

5. JENDL-3PR1, 3PR2 検討専門家会議

五十嵐氏から資料5により、核融合ニュートロニクスにおける核データ検討会の名称でJENDL-3PR1, -3PR2の検討のための専門家会議を7月23日～25日の3日間開催することの報告とともにプログラムの説明があった。その中で、今回の検討会はWG活動の一環として行うことと炉物理委員会の専門会と合同でやるために参加人員を制限したとの話があった。

6. NEANDC 会合及び光学模型専門家会議

五十嵐氏から、資料6により次のNEANDCの会合の際のTopical Conferenceの議題について問合せのあったことの説明があった。意見があったら7月末までに五十嵐氏へ連絡することにした。また、11月13日～15日に行われる

Specialists' Meeting on the Use of the Optical Model for the Calculation of Neutron Cross Sections below 20 MeV の紹介があった。なお、NEANDC 会合で提案したいことがあったら知らせて欲しいとの要請があった。

7. 中性子源に関する IAEA 諮問グループ会議

原田氏から資料 7 にもとずき、来年の 6 月 9 日～13 日に行われる予定の IAEA Advisory Group Meeting on Neutron-Source Properties について説明があり、その中でこの会議には関心のある人が多いと思われるので広くアナウンスして欲しいとの要請があった。また、梶山氏から日本が寄与できる分野について話があった。

この会議については物理学会、原子力学会を通じてアナウンスするとともになるべく広範囲に知らせることにした。

8. 核データセンターの従来構想について

五十嵐氏から原研の東海研で行われた核データ原子分子データ整備計画アドホック会議の報告書(資料 8)の概要について説明があった。その中で核データセンターの年次計画についても説明があった。

9. 核データ研究会準備状況

五十嵐氏から資料 9 のプログラム案について説明が行われた。その中で、中国からの返事は未だ来ていないこと、また、パキスタンから研究会について問合せのあったことの話があった。

10. 1988 年核データ国際会議準備

五十嵐氏から資料 10 により準備委員会第 1 回会合の概要ならびに準備予定表について説明があった。また、次回に組織委のメンバーを決めたいので検討しておいて欲しいとの要請があった。これに関連して日本からの発表を多くするためにも大学関係の key になる人を準備委に入れて盛上げる必要があるとの意見があった。

なお、準備委の松浦氏が石黒氏(原研)と交替することになった。また、北沢氏(東工大)、瑞慶覧氏(日立)を準備委に加えることにした。

組織委のメンバーの推薦は 8 月 15 日までに五十嵐氏へ連絡することにした。

11. 遮蔽における JENDL-2 の問題

大谷氏から資料11を用いて、高速炉の遮蔽評価に JENDL-2 データを使用した際の問題点について詳しい説明が行われた。これに関連して Fe の 24 KeV window や Na の全断面積の JENDL-2 データと ENDF/B-IV データとの差異について議論があった。

12. 本委員会について

6月10日の本委員会の印象、反省点等について討議を行った。いつもよりは議論があって良かったとの意見が多かった。

13. 原子力総合シンポジウム

五十嵐氏から資料11により情報流通特別専門委が第24回原子力総合シンポジウムに「原子力をとりまく情報界の趨勢」等のテーマを提案する計画のあることが紹介された。これに関して、シグマ委としてはこれにどう加わるかについて議論があった。また、科学技術情報と核データベースとの関連・差異について討議が行われた。

次回は 9月10日(火) 午後 原研本部で行う予定。